

巻頭言



東日本大震災への支援について

会長 高野 繁

平成23年3月11日(金)午後2時46分、東北地方太平洋沖に大地震が発生しました。国内観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、それにもなつて発生した津波や原発事故によって、岩手県・宮城県・福島県・茨城県の4県は大きな被害をこうむりました。新聞報道によると、現在のところ死者は1万2431人、行方不明者は1万5513人、避難者は16万3008人であり、東日本大震災と命名されたこの災害は、日本の将来をも左右する未曾有のものとなりました。本会会員では宮城県石巻市の田中仁先生がお亡くなりになりました。大変残念なことであり、心よりご冥福をお祈り申し上げます。また被災されました会員の諸先生、ご家族、従業員の方々にお見舞いを申し上げます。

ただちに3月14日(月)に本会は日本眼科学会と共に災害対策本部を立ち上げ、現在までに3回の災害対策会議を開催し、対応を協議いたしました。まず①災害義援金募集のための口座開設、②被災地の会員の消息確認、③眼科関連物資(CL・点眼薬・手術ディスポ製品など)の確保への対応を行いました。特に眼科関連物資の確保については、日本眼科医療機器協会、眼科用剤協会、日本CL協会と日本眼内レンズ協会にも災害対策本部のメンバーとして参加してもらい、被災地の患者や会員が十分な供給を得られるよう最大限の努力を払いました。

また被災地でも、各県の眼科医会と大学眼科学教室が手を携え、ただちに災害対策本部を立ち上げてくれました。そのおかげで連絡窓口の1本化がはかられ、その後の情報交換や眼科関連物資の供給を比較的混乱もなく、スムーズに行うことができました。被災地での関係者の迅速なる対応に心からお礼を申し上げます。

災害初期の課題が少しくりやめされたところで、3月31日(木)、岩手県被災地の視察をしてまいりました。その詳細は本会誌の「医会だより」で述べておりますが、大船渡市と陸前高田市の被災地視察と陸前高田市の眼科巡回診療に同行させていただきました。そこで見たものは、岩手医科大学眼科学教室のスタッフが力を合わせて、眼科医のいなくなった被災地の避難所を1ヵ所ずつ、「自己完結型」の方法で巡回診療を行っている姿でした。宮城県でも東北大学医学部眼科学教室が、また福島県でも福島県立医科大学眼科学教室が被災地の眼科巡回診療を行っているとの情報を得ております。今後しばらく続くであろう眼科巡回診療に対する、経済的ならびに眼科医や視能訓練士などによる人的な支援の必要性を強く感じました。

まだ余震情報が毎日伝わってきています。また福島原発問題は全く先が見えておりません。東日本大震災がもたらした被害に対しては、長期間にわたる支援が必要であると確信いたしました。また被災された本会会員の支えになることはもちろんですが、医療人として被災地の方々に対する息の長い支援をしていかななくてはならないと決意いたしました。会員各位のご理解とご協力を得て、しっかりした対応をしております。よろしくお祈り申し上げます。